

優秀賞

少し遅れた卒業式

山形県 高畠中学校 一年

小林 聖

2022年、3月19日。この日は、小学校の卒業式がありました。今までの小学校生活をいっしょに過ごしてきた6年1組の仲間たちが、校長先生から卒業証書を受け取り、希望に満ちあふれた姿で卒業していったころ、私は家で本を読んでいた。

私が、みんなと卒業式をできなかった理由は、母の職場で新型コロナウイルスのクラスターが発生してしまったためです。本当はみんなといっしょに卒業式に出席して、今までがんばってきた「親へのメッセージ」や「6年生になってからの思い出発表」などをしたかったけれど、それができないとわかり、とても残念でした。

卒業式が終わったあとには、春休みに入り、いよいよ中学校へ入学するための準備をしなければならぬ時期となりました。普通は、新しい環境での生活がどんなものなのかとわくわくするところですが、私の場合は、春休みの宿題をしているときも、大好きなゲームをしているときも、ずっと卒業式や、友達のことを考えていました。本当は楽しいはずの休みなのに、私にとっては、とてもひまで、楽しく感じることはできませんでした。

そんな休みが何日か続いたころ、小学校から家に電話がかかってきました。その内容は、「私のために卒業式をやり直してくれる」というものでした。とてもうれしかったし、その決断をしてくださった先生方に、心の中で何度も、何度も感謝をしました。

3月29日、ついに卒業式本番の日がやってきました。体育館のとびらの前に立つと、すぐきんちょうしていた私に、担任の先生と副担任の先生が、

「あんまりきんちょうしなくても、大丈夫だからね。」

などと優しく声をかけてくださいました。

いよいよとびらが開き、体育館の中に入ると、そこにはたくさんの人たちがいて、私に拍手を送ってくれていました。6年1組のみんな、学童の子たちや先生、学校の先生方、そして家族。びっくりしたし、何よりこんなにたくさんの人たちが私の卒業式のために来てくれたとわかり、すごくうれしかったです。

入場が終わって自分の席につくと、校長先生からのお話などをいただいたあと、ずっとやりたと思っていた、「親へのメッセージ」、「6年生になってからの思い出発表」をしました。今まで練習してきたことをみんなですることができ、とても達成感がありました。その後も式は続いていき、大成功に終わりました。

この経験で、友達や今までお世話になった方々の大切さを改めて知ることができました。これからも、大きなあいさつ、えしゃくなどを心がけて生活し、少しずつでもあのときもらった笑顔やうれしい気持ちを、ほかの人たちにも分けてあげたいです。そして、私があげた「笑顔や優しさ」を、もらった人が次の人、また次の人と、どんどんつないでいって、みんなが幸せになってくれるとうれしいです。